

令和5年度こども家庭庁委託事業
「母子保健指導者養成に関する広報啓発」

流産・死産を経験した家族への グリーフケア

静岡県立大学看護学部/看護学研究科

太田 尚子

内 容

1. 流産・死産で子どもを亡くした
家族のグリーフ&取り巻く環境
2. ケアの在り方
3. グリーフケアの実際
母親たちのケア・ニーズ
サポートグループ「天使の保護者ルカの会」
切れ目ない支援
4. 行政や地域で求められる支援

周産期喪失：ペリネイタル・ロス

Perinatal loss

流産（自然流産、人工流産/人工妊娠中絶）
：22週未満の妊娠の中絶

死産（自然死産、人工死産/人工妊娠中絶）
：妊娠満12週以後の死児の出産

令和3年 人口動態統計

- 流産：妊娠の15%前後 ①
- 死産：16,277 ②
 - 自然死産： 8,086
 - 人工死産： 8,191

① 「公益社団法人日本産婦人科学会」

https://www.isog.or.jp/modules/diseases/index.php?content_id=4

② 「厚生労働省：令和3年(2021)人口動態統計月報年計(概数)の概況」

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/geppo/nengai21/index.html>

他の死別との違い

- 誕生と死が同時におとずれる
- 子どもとの思い出を作る時間がない
- 母親は、子どもへの愛着を形成しているけれども、それを他に人には伝えにくい
- 非公認のグリーフ 隠されやすい

喪失 (loss) とは

「人に備わっていた特定の資質の一部が減少すること」

Neimeyer, R.A.

ビリーブメント (Bereavement)

「愛する者を亡くす、奪われるという意味の喪失」「死別による喪失」

グリーフ

- 喪失によってもたらされる反応
- グリーフは、アタッチメント・ボンドの喪失によっておこる。

大切な人やものを失った時、感情、身体、認知、行動などのあらゆる側面で反応を示す。

アタッチメントとグリーフ

- アタッチメント・ボンド

アタッチメント(愛着)によって結ばれた関係のこと

グリーフは、アタッチメント・ボンドの喪失によって起こる

情緒的症狀

ショック
麻痺
罪悪感
怒り
不安

よくうつ状態
自責感
現実感の喪失
自我の喪失
孤立感

身体的症狀

空虚感
胸部や喉がしめつけられる
息切れ
虚弱 / 疲れやすい
よく汗をかく

ペリネイタル・ロス

認知的症狀

赤ちゃんのことが頭からはなれない
まぼろしを見る
幻聴(赤ちゃんの声、赤ちゃんが動く)
集中できない 判断できない
赤ちゃんの空想
状況認識の減少

行動的症狀

眠れない
悪夢をみる
食欲不振
社会的孤立

薬物の使用 / 濫用
回避
・医療専門職
・妊婦
・赤ちゃん

図 症状のドメイン (Moscarello 1989 J Palliat Care)

グリーフの3つの局面

1. 回避の局面
2. 同化の局面
3. 適応の局面

* 3つの局面を行きつ戻りつする

* グリーフは、一生涯続く

(Neimeyer, R A, 鈴木剛子訳, 2006)

回避の局面

- ショックで無感覚、すべてが「非現実的」
- 周囲から隔離されたような感覚
- 辛さ回避するため、死を否認
- 物事を系統立ててできない、いつもうわの空

<サポート>

- 生活に必要な具体的なことの支援

同化の局面

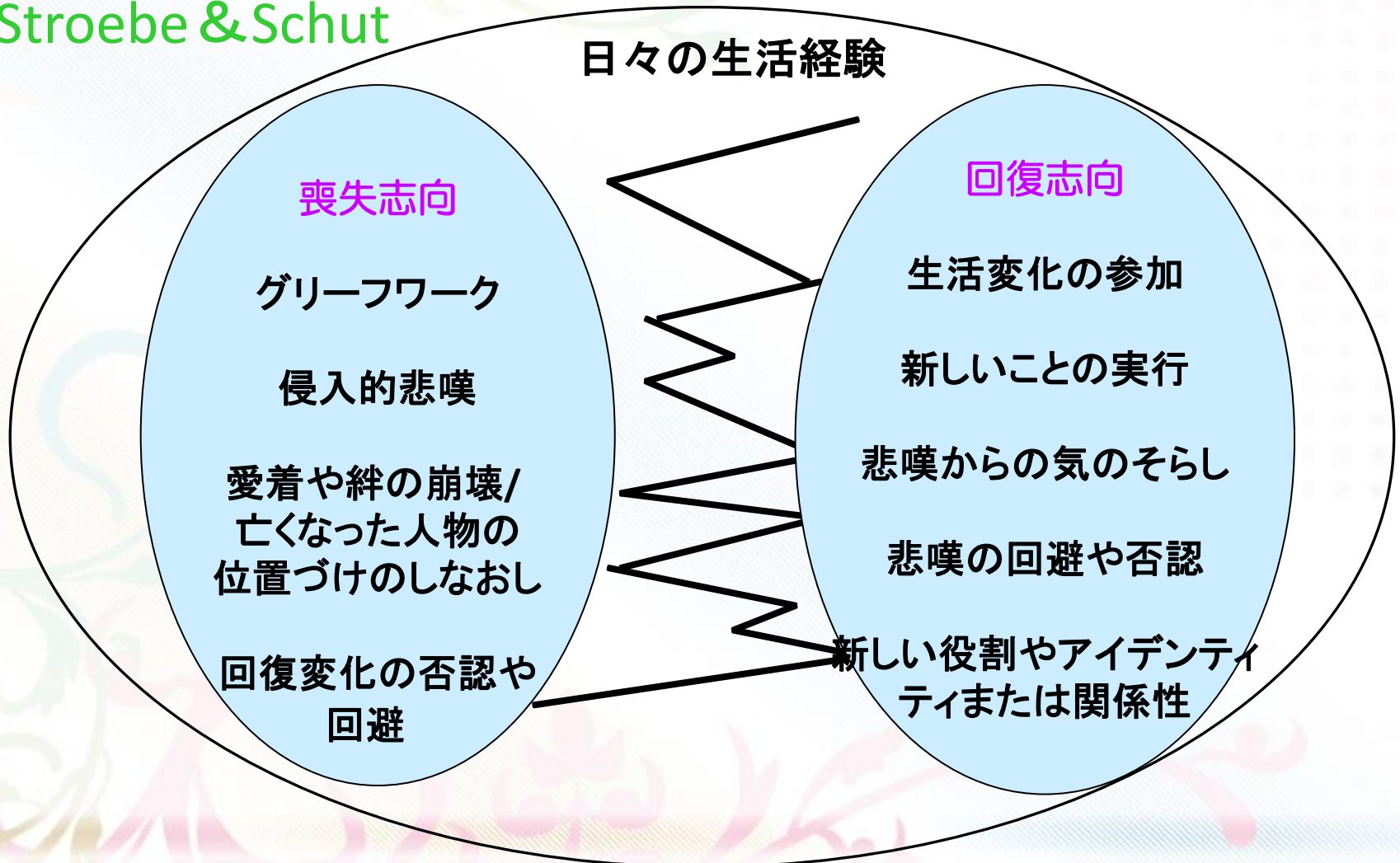
- 死は否定できない
- 抑うつ状態、引きこもり
- 怒り、後悔、悲しみ、罪悪感
- 身体的苦痛

適応の局面

- 死を容認せざるをえないという境地に達する「諦めの容認」
- 集中力や生活能力の改善
- 目標を持った長期的な活動ができるようになる
- 自分の社会生活の建て直し
- 新しい目的をさがし、次の妊娠が考えられるようになる

死別へのコーピングの 二重過程モデル

Stroebe & Schut



周産期喪失を経験した母親・ 家族グリーフ

* グリーフ・サイクル

グリーフのサイクルは、個人差が大きいですが、一般的に数年の単位で持続

* 周産期喪失のグリーフと精神障害との関連

抑うつ、不安、強迫神経症、自殺、夫婦の葛藤、外傷後ストレス症候群(PTSD)との関連

* 次の妊娠にも拡大する影響

妊娠中の不安・抑うつ、次の子どもへの愛着障害

* 再び妊娠することを恐れている女性

パートナーと喪失をシェアできなく、より大きな緊張を経験。
愛情、コミュニケーション、パートナーからのサポートの減少を経験。
(Armstrong, 2002)

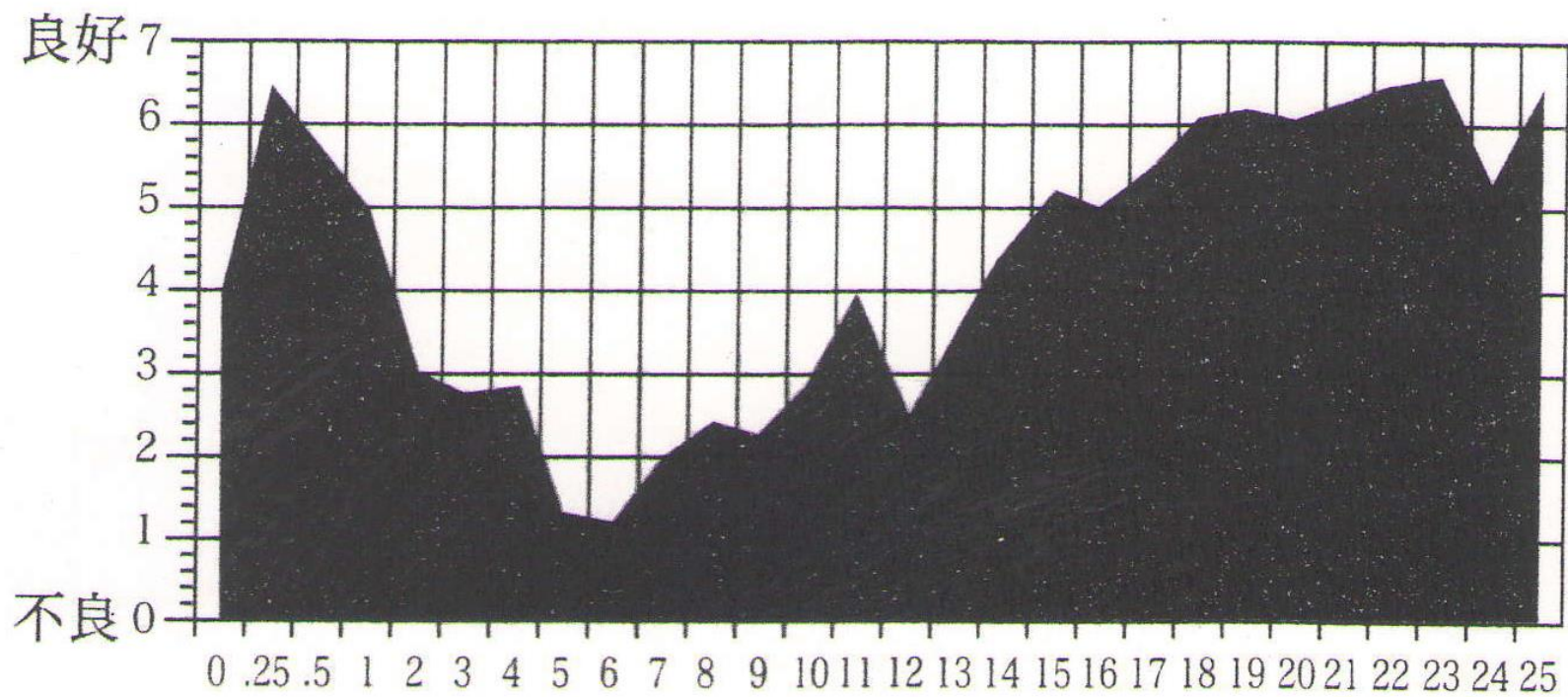
どのような心理的問題が 起こりうるか？

- 母親、そのパートナー、そして子供たちはすべて、PTSDを含む、長く深刻な心理的反応のリスクを抱えている。その反応がそれぞれで異なることに注意。
- 産後のうつによる入院率の増加に関連している。未解決の、正常な悲嘆反応は、PTSDに進展しかねない。ソーシャルサポートを受けていない女性は、特に心に傷を受けやすい。

どのような心理的問題が 起こりうるか？

- パートナーも、深刻な悲嘆反応に苦しむことがある。男性は、自責感、不安、気持の落ち込みをあまり表出しない。しかし、PTSDを発症しうる。
- 両親の間での悲嘆反応の不一致は、新生児死の場合よりもおこりやすく、このことが悲嘆反応がより長くなったり異常になるリスク要因となる。
- 生児の出産に比して、死産後の離婚率は、40%以上リスクが高くなる。

死別体験者の行動能力レベルの変遷 — 体験後の2年間の行動



体験後の経過月

「大切なものを失ったあなたに」 p39より

夫・パートナーへの影響

- 女性と同じようにグリーフ、うつ病、ストレス、不安などの感情を経験
- 女性よりも心理的反応の激しさに耐えられるレベルは低い傾向
- 自分の感情を表すのを躊躇し、回避の度合いが高い
- サポートにアクセスするのに困難
- 仕事に集中して気を散らすなどして対処
- グリーフを外に向かって表出することを抑制する傾向

(Due,2017、太田,2020)

きょうだい(兄弟)への影響

- ・きょうだいのグリーフは、個人差が大きく、発達段階によって死の捉え方(死の概念)は異なる。
- ・死に直面した経験がなく、思考能力が発達途上であるため、考えや感情を説明できない。
- ・継続的に痛みを耐えることは難しく、自分の生活をコントロールすることも容易ではない。

(Wilke,2012、太田,2020)

子どもの発達段階における 死の捉え方と介入方法

年齢	死の概念	介入方法
2-4歳	死は永遠ではなく、元に戻せると思う	少しずつ誠実に関わる。何でも質問に答え安心させる。一貫性。日常性。
4-7歳	死をまだ、元に戻せるものとみなす 望みや思考から出てくる責任感	絵を描いたり、物語りを作ったりする抽象的な遊び。身体を使って、はけ口を見つけ、エネルギーや気持ちを発散させるように促す。話し合うこと。
7-11歳	死を罰とみなす 死が未だ元に戻せるものと思いたいが、永久的であると理解し始める。	質問に答える。いろいろな気持ちを出すように薦める。選択肢を説明して選ばせる。身体を使ったはけ口を作る。できるだけ話すこと。
11-18歳	死を概念化し始める	言葉に出すことを薦める。指導しようとしなない。自発性を促す。耳を傾ける。いつでも相談に乗る。

流産、死産等を経験した女性の相談ニーズについて

令和2年度子ども・子育て支援推進調査研究事業(国庫補助事業)「流産や死産を経験した女性に対する心理社会的支援に関する調査研究」株式会社キャンサーズキャン

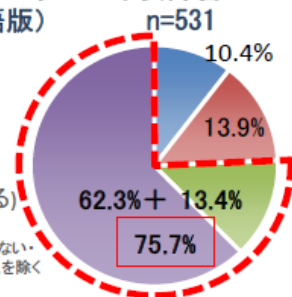
調査目的 流産、死産等を経験した女性等に対する心理社会的支援のニーズ及び支援体制等について実態を把握し、支援体制の整備や強化を進める上で有益な基礎資料とする。

調査手法 過去5年間で流産や死産を経験した20～50歳までの女性618名に対し、インターネットによる調査を行う。

調査時期は令和2年11月18日、19日。

●最もつらく支援を必要とした時期のうつ・不安障害を疑うスクリーニング (K6日本語版)

- 4点以下
- 5～9点 (何らかの問題がある可能性)
- 10～12点 (うつ・不安障害が疑われる)
- 13点以上 (重度のうつ・不安障害が疑われる)

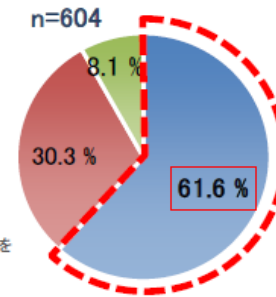


※前項の質問、最もつらく支援を必要と感じたかについて、「わからない・答えたくない・辛く、支援を必要と感じた時期はない」と回答した人を除く

支援を必要と感じたと答えた女性(n=531)のうち、うつや不安障害が疑われる人は**75.7%** (K6スコア10点以上)

●流産・死産がわかった直後に感じたつらさについて、誰かに話したり相談したか

- した
- しなかった
- どちらともいえない

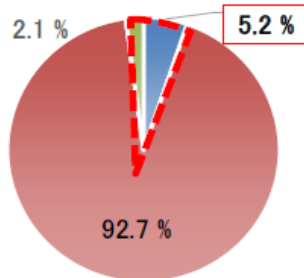


※前項の質問、流産・死産が分かった直後にどのような辛さを感じていたか、について「特になし」と回答した人を除く

流産や死産がわかった直後に感じたつらさを誰かに話したり相談したのは**61.6%**

●流産・死産の経験やつらさについて、地域の専門相談窓口や保健センター保健師等へ相談したことがあるか

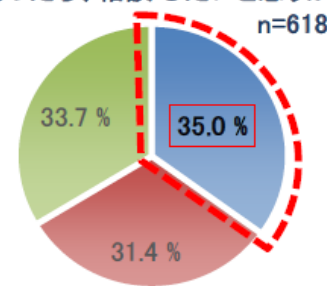
- ある
- ない
- 覚えていない



流産・死産の経験やつらさについて、地域の専門相談窓口や保健センター等に相談したのは**5.2%**

●流産や死産についての知識を持った専門職や流産・死産の経験者等が相談にのってくれる場があったら、相談したいと思うか

- 思う
- 思わない
- どちらとも言えない

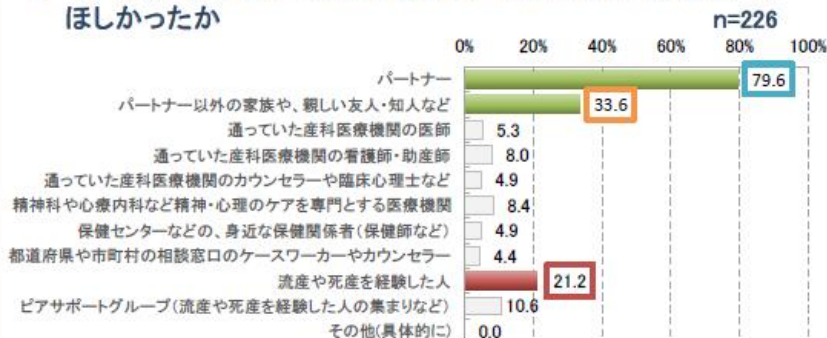


知識をもった専門職や流産・死産の経験者等が相談にのってくれる場があれば、相談したいと答えたのは**35%**

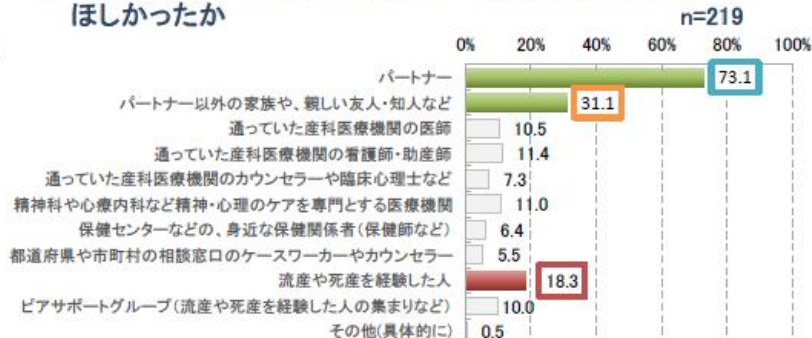
4

流産、死産等を経験した女性の相談ニーズについて

● 「亡くなった子どもへの思い」について誰にもっと話を聞いてほしかったか



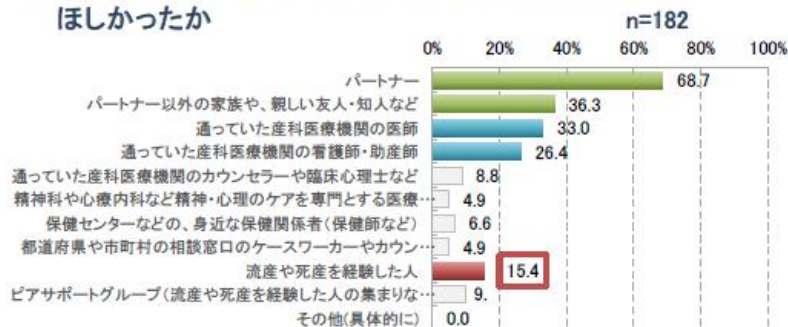
● 「自分を責めてしまうこと」について誰にもっと話を聞いてほしかったか



・「亡くなった子どもへの思い」や「自分を責めてしまうこと」については、パートナーに話をきいてほしかったと答えた女性が、70%以上であった。

・流産や死産を経験した人に話を聞いてほしかったと答えた女性は、20%前後であった。

● 「今後の妊娠・出産」について誰にもっと話を聞いてほしかったか



・「今後の妊娠・出産について」は、パートナー、友人について、医療機関の医師や、看護師、助産師に話をきいてほしかったと答えた女性が多かった。

● パートナーの相談ニーズについて

パートナーの辛さや相談の有無等について、流産・死産を経験した女性に調査した結果



・パートナーも辛さを感じていたと答え女性は、73.3%であった。
 ・パートナーがその辛さを誰かに話したり相談したりしたかについては、「しなかった」との回答が41.7%。
 相談しなかった女性の割合30.3%に比べて高い割合となった。

流産または死産を経験した人に対する自治体の支援体制について

令和2年子ども・子育て支援推進調査研究事業(国庫補助事業)「流産や死産を経験した女性に対する心理社会的支援に関する調査研究」株式会社キャンサーズキャン
 調査手法 都道府県及び市区町村を対象に調査。回答数は、都道府県42か所、政令市・中核市52か所、その他市町村1,096か所。
 調査時期は令和2年10月下旬～12月10日。

● 妊娠届後の流産(12週未満の初期流産)について把握する体制の有無



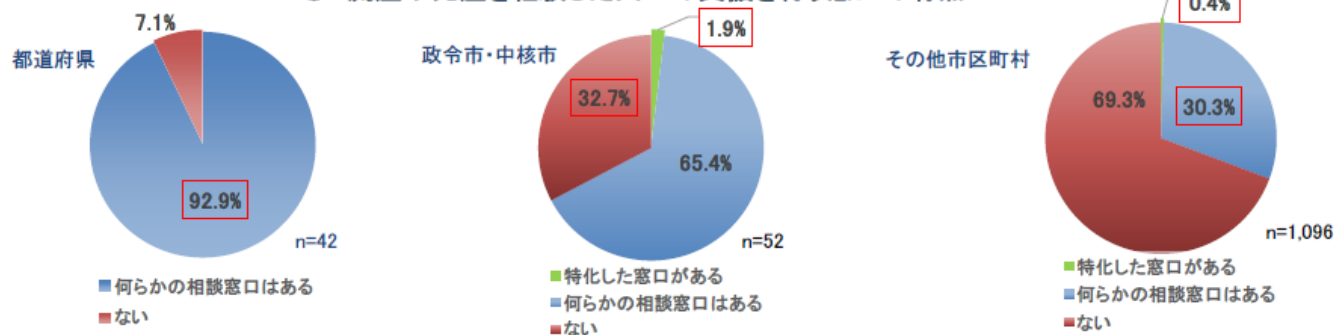
妊娠届後の流産(12週未満の初期流産)について把握する体制があると回答した市町村は51.1%。

● 妊娠届後の死産について把握する体制の有無



妊娠届後の死産について把握する体制があると回答した自治体は62.9%。そのうち、戸籍課等が受理した死産届の情報共有は、38.5%にとどまっている。

● 流産や死産を経験した人への支援を行う窓口の有無



行政の窓口への相談内容

- ・都道府県では、不育症の検査・治療に関する相談、次の妊娠に向けての相談、流産や死産の原因などの相談等「**医療的な相談**」が多かった。
- ・市町村では、気持ちの落ち込みや辛さなどの「**精神的な相談**」が多い傾向であった。

流産や死産を経験した女性等への心理社会的支援等について

➤ 母子保健法による位置づけについて

法第6条第1項に規定する「妊産婦」とは、妊娠中又は出産後1年以内の女子をいい、この「出産」には、**流産及び死産の場合も含まれます。**

➤ 母子保健施策のための死産情報の共有について

「母子保健施策のための死産情報の共有について(依頼)」(令和2年11月20日付子母発1120第1号政統人発1120第1号厚生労働省子ども家庭局母子保健課長及び厚生労働省統計管理官(人口動態・保健社会統計室長併任)通知)において、保健統計主管課に対し、**母子保健担当課の求めに応じた死産届に関する必要な情報共有**を依頼しています。

➤ 流産や死産による死胎の取扱いについて

妊娠4か月以上の死胎の火葬、埋葬等については、墓地、埋葬等に関する法律(昭和23年法律第48号)により、死体と同様に取り扱われます。妊娠4か月未満の死胎については、同法の対象ではありませんが、**社会通念上、丁重に取り扱うことが求められます。**

流産や死産をした女性等の心情にも配慮し、流産や死産による死胎が適切に取り扱われるよう、関係者への周知、理解促進等適切な対応をお願いします。

令和3年5月31日付子母発0531第3号厚生労働省子ども家庭局母子保健課長通知
「流産や死産を経験した女性等への心理社会的支援等について」より抜粋 9

ケアの原理・基盤となる概念

「両親中心のケア」

提供されるケアは、両親の選択によって決定され、両親自身が表明したニーズに基づいて行われるべきである。

- 喪失の経験や悲嘆の経験は、個人的。両親のニーズはそれぞれ異なり、彼らだけが、ニーズが何であるかがわかる。
- 経験を両親から遠ざけることは、一見、喪失の現実性や悲しみから両親を守るように思われるが、悲嘆することを難しくする。
- 両親は、赤ちゃんと一緒に過ごす将来はなく、一緒にいられる時間は限られている。そのため、喪失の前後でされたことやしたことは特別な意がある
- 両親は自ら選択でき、自分でコントロールできる状況にあることが重要。

Guidelines for Professionals. London : Stillbirth and Neonatal Death Charity

母親たちのケア・ニーズ

- * 『母親になることを支える』
- * 『悲嘆作業を進めることを支える』
- * 『希望を引き出して意志決定を支える』

(太田, 2006)

母親たちのケア・ニーズ(1)

『母親になることを支える』

《希望するだけ子どもに会うこと・別れることを支える》

《生きていた証を残す思い出づくり》

《子どもが活着ているかのようなケア》

《火葬と供養を支える》

(太田, 2006)

母親たちのケア・ニーズ(2)

『悲嘆作業を進めることを支える』

- 《子どもや出来事の話の引き出しと傾聴》
- 《泣いていいことの保証と泣ける環境》
- 《心の痛みを助長させない環境》
- 《退院後の心のサポートと情報の提供》
- 《母親を支援できるように家族を支える》

(太田, 2006)

「子どもに会うことは、この子の母親
なんだという自覚が出てくる幸せな
瞬間だった」

私はすごく会ってよかったと思うし、自分の子どもなんだっていう実感が、触れ合って会うことによって、すごく得られたと思うんですね。（中略）辛くなかった。「ごめんね」って言いましたけど、すごくね、愛おしくくてね、可愛くてねえ。なんかこのままずっと抱っこしていたーいっていう感じでねえ、なんかすごく幸せー。不思議ですよ。・・たぶんねえ、「私は、この子の母親なんだ」っていう自覚が出てくる瞬間でもあるのかな、会うっていうことはねえ。

<研究協力者S>

《生きた証を残す思い出づくり》

出生後

- * できるだけたくさんのお品を残す
- * お品を残せることの助言や
選択肢の提示
- * 希望するまでお品を保管

妊娠期

- * 胎児との思い出づくり

形見・記念品

- * へその緒
- * 足型・手形
- * 髪の毛・爪
- * 赤ちゃんのベットのネームカード、
ネームバンド
- * 母子健康手帳：出生の記録を記入
- * 赤ちゃんが身につけたものなど
- * 超音波の写真
- * 写真

「あの子が本当に生きて いた証、手形がほしい」

手形とかね、あったらやっぱり悲しいんじゃないかと思う方たちもいると思うんだけど、私は今それがほしくてたまらないけれど、でもどうしようもないことなので。何か、ほんとに（子どもが）いたんだってというようなものをとっておいて、母親がそれを希望した場合に、いつでも提供できるようなのがあったら、嬉しかったかなと思いますね。

（研究協力者K）

《子どもが生きている かのようなケア》

* 生きた子どもと同じ扱い

＜分娩期＞

「赤ちゃんも頑張ってるよ」「生まれたよ」

＜出生後＞

- 亡くなった子どもに声を掛ける
- 抱いて連れてくる
- 生きた子どもと同じケア

* 人間としての尊厳

* 子どもの生の尊重

「助産師が、赤ちゃんも頑張っているからねと言ってくれた」

助産婦さん・・・、すごく若かったけど、すごく優しい方でねえ。「頑張ってるねー」ってすごい、「赤ちゃんも頑張ってるからねー」って言ってくればって、頑張れましたねえ。（中略）その時に助産師さんが、Kのことを、死んだもの、もう何もないものとして扱われてたら、きつかったかな。それこそモノ扱いとかされてたら、きつかったかなあと思いますね。

（研究協力者H）

「子どもを生きて産みたい、 生かしてあげたい」

すごく一生懸命生きてるいのちを感じるので、可愛くてやっぱり仕方がないんですよ。（中略）・・・私がボロボロって泣いていると、コシヨコシヨ動くんですよ。だから泣いちゃ駄目だよ。おなかの子にしゃべり、自分自身にしゃべりかけながら、自分を励ましてたんだと思うんです。頑張っているんだよねって、こんなに一生懸命ね、お母さん応援してくれてるんだよね。・・・自分のために生きてるんだもんね。だからお母さんも頑張るよって思ってからですか、生きているのに会いたい、あなたが生きて生まれるなら。

＜研究協力者Y、死ぬ運命の子ども（無脳症）＞







天使キットと冊子 「悲しみのそばで」



《火葬と供養を支える》

- 火葬に立ち会いたい
- 供養やセレモニーに関する情報提供



「子どもと、できるだけ たくさんの思い出を作りたい」

限りある時間なんですね。絶対もう、骨になってしまったらできないわけですよ、いろいろなことが。もう絶対取り戻せない。写真をいっぱい撮って、いっぱい抱いて。手形のアルバムとかも作って、Kを抱いてお腹の中で読んでいた絵本を読んであげた。お歌も歌ってあげた。・後悔しないようにって、一生懸命考えながらやったんですよ。

＜研究協力者B＞

《子どもや出来事の話の 引き出しと傾聴》

* 心の扉を開けて話を引き出す

* 寄り添いと傾聴

* 避けないで普通に接する

「子どもについての話を 引き出してほしい」

確かに存在してた、生きてたので、「可愛かったよね」ということを、言ってくればすごく救われると思いますね。（中略）お母さんにとっては、自分で産んだ、自分のおなかの中に確かに生きていた子なので、やっぱり話はしたい。そこで打ち切ってしまうなだけで、どんどん引き出すように話していただければ楽になるかなあと思いました。

＜研究協力者G＞

「助産師が、子どもの体の特徴をいろいろ話してくれた」

取り上げてくださった助産師さんが、事細かに、「お耳はパパに似てたわよ」とか、「足は、長かったわねー」とか。「パパもママも背が高いから長いのかなー」とか。物扱いをせずにほんとは子どもとして、いろいろ話してくれたことが。腫れ物に触るように扱われたらたぶん、もっと傷ついたと思うんですけど、いろいろ話をしてくださったことが、私にとってはすごく忘れられない思い出というか、少ない貴重な思い出なので、ほんとうに感謝しています。

＜研究協力者N＞

母親たちを取り巻く環境

- ペリネイタル・ロスのタブー
- 日本人の察しといたわり 話題を避ける
- 赤ちゃんのことを語るができない母親をとりまく環境
- 赤ちゃんが家族メンバーとして認められない
- 赤ちゃんの存在を無視する言葉
- 母親のニーズに沿っていない慣習

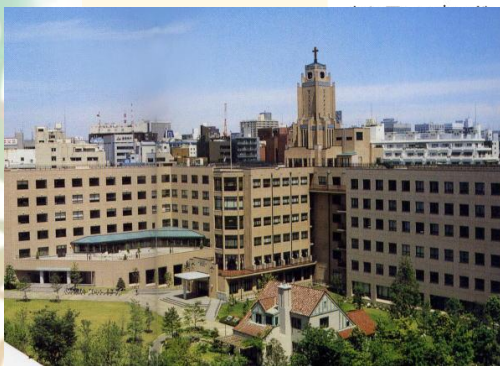
49日の納骨

水子供養

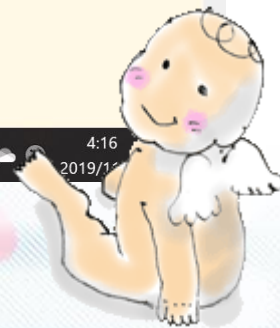
退院後のサポート・ニーズとセルフヘルプ活動

天使の保護者ルカの会

The screenshot shows a web browser window with the URL <https://tenshi-rukanokai.jpn.org/>. The page features a large illustration of a baby angel sitting on a cloud. Below the illustration, there is a navigation menu with the following items: トップページ, ご案内, スケジュール, 開催場所, お話会のお約束, ルカの会の特徴, 参加方法, 参加者の声, グリーフ・カウンセリング, スタッフ, ブログ, 誕生死や悲嘆に関する書籍, 天使がくれた出会いネットワークについて, お問い合わせ. A search bar is located below the navigation menu, with the text "検索" and "トップページ" next to it. The main content area contains the text "流産や死産、新生児死亡を経験されたご両親やご家族をサポートすることを目的に「天使の保護者ルカの会」は活動しています。". The Windows taskbar is visible at the bottom of the browser window, showing the time as 4:16 on 2019/1/11.



<https://tenshi-rukanokai.jpn.org/>



組織の紹介

主催：聖路加国際大学

セルフヘルプ・グループ「お空の天使パパ&ママの会」

目的：セルフヘルプミーティングを通じた体験者相互の支援

対象：流産・死産・新生児死亡を経験した母親、父親、家族

参加費：500 円 **頻度：**毎月一回

スタッフ：体験者スタッフ

助産師（助産学教員/大学院生）、臨床心理士

内容：セルフヘルプ・ミーティング（お話し会）

手づくりの会

参加人数：延べ 約1000名（2004.9～ ）

運営の実際

申し込み：参加意志の確認、プロフィール送信の依頼
不安の表出、プライバシーの保護

開催準備：会場準備
プレ・ミーティング
(情報の共有、グループ分け、役割分担、
注意事項の確認)

進行：お約束事の読み合わせ
自己紹介
フリートーキング
医療に関する質問

個人情報管理：非公開、情報の破棄

安全：少人数制、臨床心理士への紹介システム

評価：事後評価ミーティング（1時間）
参加者対象のアンケート

天使の保護者ルカの会 会場



話 題

- 子どもとの思い出づくり
- 供養の方法
- 亡くなった子どもとの付き合い方
- 家族関係や社会生活での戸惑いや困難
- 友人や社会との付き合い方
- 日々の暮らし方
- 医療に対する思い
- 次回の妊娠

本の紹介



思い出づくりの紹介

* カロートペンダント

* 骨壺

* メモリアルベア

* メモリーボックス

など



「エンジェルキルト」の作品



ファーストステップシューズ



参加後の感想

- ▶ 有意義で楽しい時間を過ごせた
- ▶ 子どものためのものが作れて嬉しかった、子どもも喜んでいる
- ▶ 今後も自分で物を作りながら、子どもと一緒に生活すれば前に進めそう
- ▶ 体験者やスタッフとの素晴らしい出会いがあった
- ▶ 体験者と話して癒された
- ▶ 同じような思いやつらい時期を体験した者たちが集い、同じ作業をしたことを幸せに感じた
- ▶ 一人ではないとわかり、希望が持てた

サポートグループの意味

- 継続した心のケア

孤独の解消、社会との繋がり、意味の再構成

- 複雑化したグリーフ、PTSD、うつ病の早期発見

- 心理専門職の個人カウンセリングへ繋げる

- 体験者の退院後の生活の実態が理解でき、入院中から長期的な経過を予測して関わることができる。

天使がくれた出会い ネットワーク

自殺者数 | 警察庁Webサイト × 全国の流産・死産・新生児死亡などで × +

← → ↻ 🔒 保護されていない通信 | tensigakuretadeai.net 🔍 📄 ☆ 🏠 尚子 ⋮

🌐 聖路加国際大学ペリネ... 🖨️ 121ware 🎓 静岡県立大学 学内... 🌐 Google 📁 IEブックマーク 🗣️ コミュファ光 Webメール 🔍 カード会員専用オンライン... 🏠 コミュファ光 by ctc | My... » 📌 すべてのブックマーク

天使がくれた出会いネットワーク

ここは、流産・死産・新生児死などで子どもを亡くした家族のための自助グループを結ぶ、ネットワークサイトです。

現在、13団体が参加し、交流や情報交換をしています。

地域別に活動しているサイトを掲載し、公式サイトへのリンクがはってあります。
あなたの近くにある自助グループを探してみてくださいね。

イベント情報掲示板

このネットワークに参加している自助グループ主催の交流会などの情報はそれぞれのHPでご確認ください。

【北海道地域】

- [NPO法人 SIDS家族の会](#)

【東北地域】

- [おいななおさまの会 \(岩手\)](#)
- [岩手SIDS \(岩手\)](#)
- [NPO法人 SIDS家族の会](#)

【九州・沖縄地域】

- [愛の会 \(北九州\)](#)
- [NPO法人 SIDS家族の会](#)

【中部・北陸・近畿・関西地域】

- [主婦ママの集まり\(静岡\)\(静岡\)](#)
- [立川会 \(二重\)](#)
- [NPO法人 SIDS家族の会 \(近畿・北陸\)](#)
- [小さな天使のママの会\(石川\)](#)
- [天使の集りかご\(石川\)](#)

【中国・四国地域】

- [NPO法人 SIDS家族の会](#)

【関東・甲信越地域】

- [WALS \(東京\)](#)
- [天使の守護者\(力\)の会 \(東京\)](#)
- [岩手会 \(東京\)](#)
- [わたぼうしの会 \(神奈川\)](#)
- [天使のプレゼント \(神奈川\)](#)
- [天使ママの会\(よこすか\) \(神奈川\)](#)
- [NPO法人 SIDS家族の会 \(北関東・東京・千葉・南関東\)](#)
- [たんぽぽの会\(長野県\)](#)

【天使がくれた出会いネットワークについて】
このネットワークは、天使がくれた出会いプロジェクトの一つとして立ち上げたサイトです。私達はこれまで、お互いの存在や活動を尊重し、時には協力しながら少しでも大切なお子様を亡くされたご家族にとって優しい環境が増えるようにと願い、それぞれの活動、そして交流を続けてきました。これからも、この繋がりを大切にし、その輪がゆっくりと広がってほしいなと思っています。

[※開会書について](#)

<http://tensigakuretadeai.net/>

静岡県での取り組み

静岡県ホームページでの情報提供

The screenshot shows the website https://www.pref.shizuoka.jp/kousei/ko-140/kokatei/perinatal_loss.html. The page features a blue header with navigation links: ホーム, くらし・環境, 健康・福祉, 教育・文化, 産業・雇用, 交流・まちづくり, 県政情報. A search bar is present with the text 'サイト内検索 Google カスタム検索'. The main content area has a green header with the text '流産・死産やお子さまとの死別を経験されている方へ'. Below this, there is a section titled '流産・死産やお子さまとの死別を経験されている方へ' with the following text: '流産・死産を経験されている皆様、今どんなお気持ちをお持ちでしょうか。皆様のつらさ、思いは計り知れないものがあると思います。お一人で悩まないでください。一緒に悩み、支える人がいます。お住まいの子育て世代包括支援センター（市町の母子保健担当）の保健師が相談をお受けします。' There is also a section titled '同じ立場の方と話したい方へ' with the text: '同じ立場の方とお話をしたいと思っていらいやしませんか？静岡県内には、多くの団体がありますので、紹介します。静岡県内の流産・死産等を経験された当事者団体や支援団体の一覧' followed by a table of organizations.

団体名	URL
・ 御殿場市サポート事業Mallow〜マロウ〜の会	HP: https://mallow2021.amebaownd.com/ (外部サイトへリンク)
・ 三島市Rainbow Planets	HP: https://lit.link/rainbowplanets (外部サイトへリンク)
・ 富士市ピアサポート / ハコグサ	HP: https://haha-kogusa.themedia.jp/ (外部サイトへリンク)
・ アンズスマイル	HP: http://ans-smile.jp/ (外部サイトへリンク)
・ 天使のママの居場所in静岡	HP: https://tenshimamanoibasho.eshizuoka.jp/ (外部サイトへリンク)
・ 浜松市ピアサポートグループtiny stars	HP: https://greenleaf7416.wixsite.com/tiny-stars (外部サイトへリンク)
・ 天使ママ/ひの会 よつぼのかい	HP: https://ameblo.jp/vmc-825/

静岡県公式ホームページ https://www.pref.shizuoka.jp/kousei/ko-140/kokatei/perinatal_loss.html

切れ目ない支援:地域での支援

- 母親やご家族へのグリーンケア
- 地域でのサポートの関する情報提供(パンフレット配布やアクセスしやすいHPなどの開設)
- サポートシステムの構築
 - 専門窓口、相談窓口の設置
 - * 体験者との協働
 - * 他職種(助産師、心理専門家など)との協働
- 自助グループ活動への支援

切れ目ない支援：妊娠から出産後まで

流産・死産・新生児死亡などを体験している

母親の把握

- ・母子保健担当者と保健統計主管課との連携
- ・医療機関との連携・情報共有

妊娠期の支援

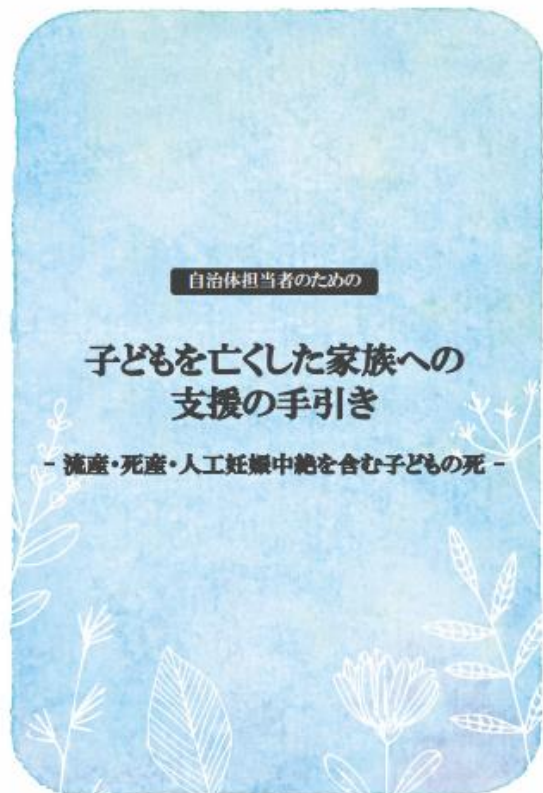
- ・母子健康手帳交付時の支援、伴走型相談支援、
- ・医療機関との連携

産後の支援

家庭訪問、電話訪問、産後ケア、
夫婦関係、家族や上の子への支援、助産所の紹介
身体と心の支援に関する情報提供

厚生労働省令和3年度 子ども・子育て支援推進調査研究事業 「子どもを亡くした家族へのグリーフケアに関する研究」

「自治体担当者のための
子どもを亡くした家族への支援の手引き
流産・死産・人工妊娠中絶を含む子どもの死」



厚生労働省 令和3年度子ども・子育て支援推進調査研究事業
「子どもを亡くした家族へのグリーフケアに関する研究」

医療機関
から
お伝え
したい
こと

「流産や死産を経験した女性と家族への情報提供リーフレット」

「人工妊娠中絶を経験した女性と家族への情報提供リーフレット」

産後の家庭訪問と 産後ケアでの支援

1.からだの支援

乳房ケア、性器出血、下腹痛、不眠、疲労、浮腫、会陰の痛みなどへの支援 など

2.心の支援

話(体験や思いなど)を聞く、スクリーニング/異常の早期発見、カウンセリングや精神科医につなぐ、自助グループにつなぐ
絵や文章を書く、癒しの方法を一緒に考える、夫婦関係への支援 など

3.こどもの供養に関する支援

遺品を残すことへの支援、思い出づくりの支援、供養に関する相談など

4.情報提供

カウンセリング、自助グループの紹介、子育て支援ヘルパー派遣事業、ファミリーサポート事業(上の子の世話など)、産後ケア、
経済的支援に関する情報(出産一時金、出産・子育て応援交付金など)

伴走型相談支援と経済的支援の一体的実施 (出産・子育て応援交付金)

流産・死産・人工妊娠中絶の方も 対象に！

出産・子育て応援交付金

令和4年度第2次補正予算：1,267億円、令和5年度予算案：370億円

1. 事業の目的

- 核家族化が進み、地域のつながりも希薄となる中で、孤立感や不安感を抱く妊婦・子育て家庭も少なくない。全ての妊婦・子育て家庭が安心して出産・子育てができる環境整備が喫緊の課題である。
- こうした中で、地方自治体の創意工夫により、妊娠期から出産・子育てまで一貫して身近で相談に応じ、様々なニーズに即した必要な支援につなぐ伴走型の相談支援を充実し、経済的支援を一体として実施する事業を支援する交付金を創設する。

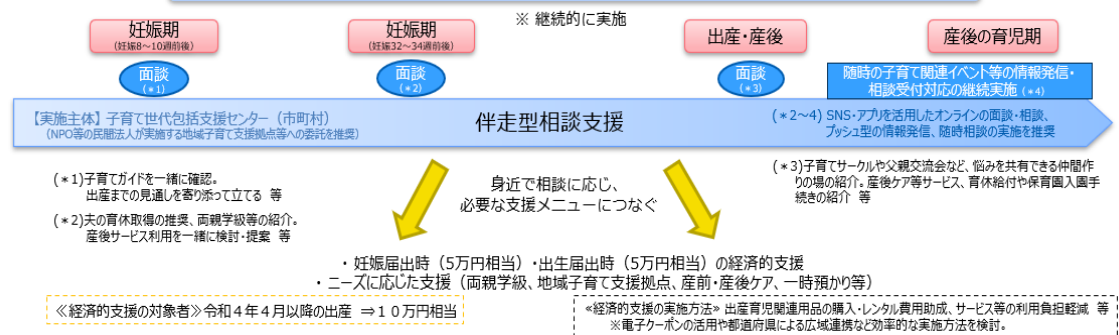
物価高克服・経済再生実現のための総合経済対策(令和4年10月28日)抄

支援が手薄な0歳から2歳の低年齢期に焦点を当てて、妊娠時から出産・子育てまで一貫した伴走型相談支援の充実を図るとともに、地方自治体の創意工夫により、妊娠・出産時の関連用品の購入費助成や産前・産後ケア・一時預かり・家事支援サービス等の利用負担軽減を図る経済的支援を一体として実施する事業を創設し、継続的に実施する。

2. 事業の内容

- 市町村が創意工夫を凝らしながら、妊娠届出時より妊婦や特に0歳から2歳の低年齢期の子育て家庭に寄り添い、出産・育児等の見通しを立てるための面談や継続的な情報発信等を行うことを通じて必要な支援につなぐ伴走型相談支援の充実を図るとともに、妊娠届出や出生届出を行った妊婦等に対し、出産育児関連用品の購入費助成や子育て支援サービスの利用負担軽減を図る経済的支援(計10万円相当)を一体として実施する事業を支援する。

妊娠時から出産・子育てまで一貫した伴走型相談支援と経済的支援のイメージ



3. 実施主体

市区町村(民間等への委託も可)

4. 補助率

令和4年度第2次補正予算 国2/3、都道府県1/6、市区町村1/6 ※システム構築等導入経費は国10/10
令和5年度当初予算(案) ○伴走型相談支援: 国1/2、都道府県1/4、市区町村1/4
○経済的支援: 国2/3、都道府県1/6、市区町村1/6 ※クーポン発行等に係る委託経費は国10/10

伴走型相談支援

- ・心の相談(話を聞く)
- ・身体の相談(乳房の張り出血、下腹痛、浮腫など)
- ・次回の妊娠に関する相談
- ・供養に関する相談
- ・異常の早期発見

交付金の利用方法の例

- ・カウンセリングの利用料金
- ・体と心の癒しのための利用料金
- ・亡くなったこどもの供養のための料金
- ・思い出づくり(遺品)のための料金
- ・産後ケアの利用料金

子ども家庭庁ホームページ

<https://www.cfa.go.jp/policies/shussan-kosodate/>

働く女性のこころとかたらの応援サイト 妊娠出産・母性健康管理サポート

働く女性が流産・死産した場合に利用できる制度

(1)産後休業

対象者：妊娠4か月以降に流産・死産した女性労働者

内容：事業主は、原則8週間、当該労働者を就業させてはいけない。（本人が請求し、医師が支障がないと認めた業務に就く場合には6週間でも可）

(2)母体健康管理措置

対象者：流産・死産後1年以内の女性労働者。（妊娠の週数は問わない）

内容：医師等から出血や下腹部等への対応として一定期間の休業等の指導が出されることがある。事業主は、女性労働者が、健康診査等を受けるための時間の確保や、医師等からの指導事項を守ることができるようにすることが義務づけられている。流産・死産後1年以内の女性労働者についても同様。

（男女雇用機会均等法第12条、第13条）

*** 母性健康管理指導事項連絡カード**

<https://www.bosei-navi.mhlw.go.jp/ninshin/ryuzan.html>

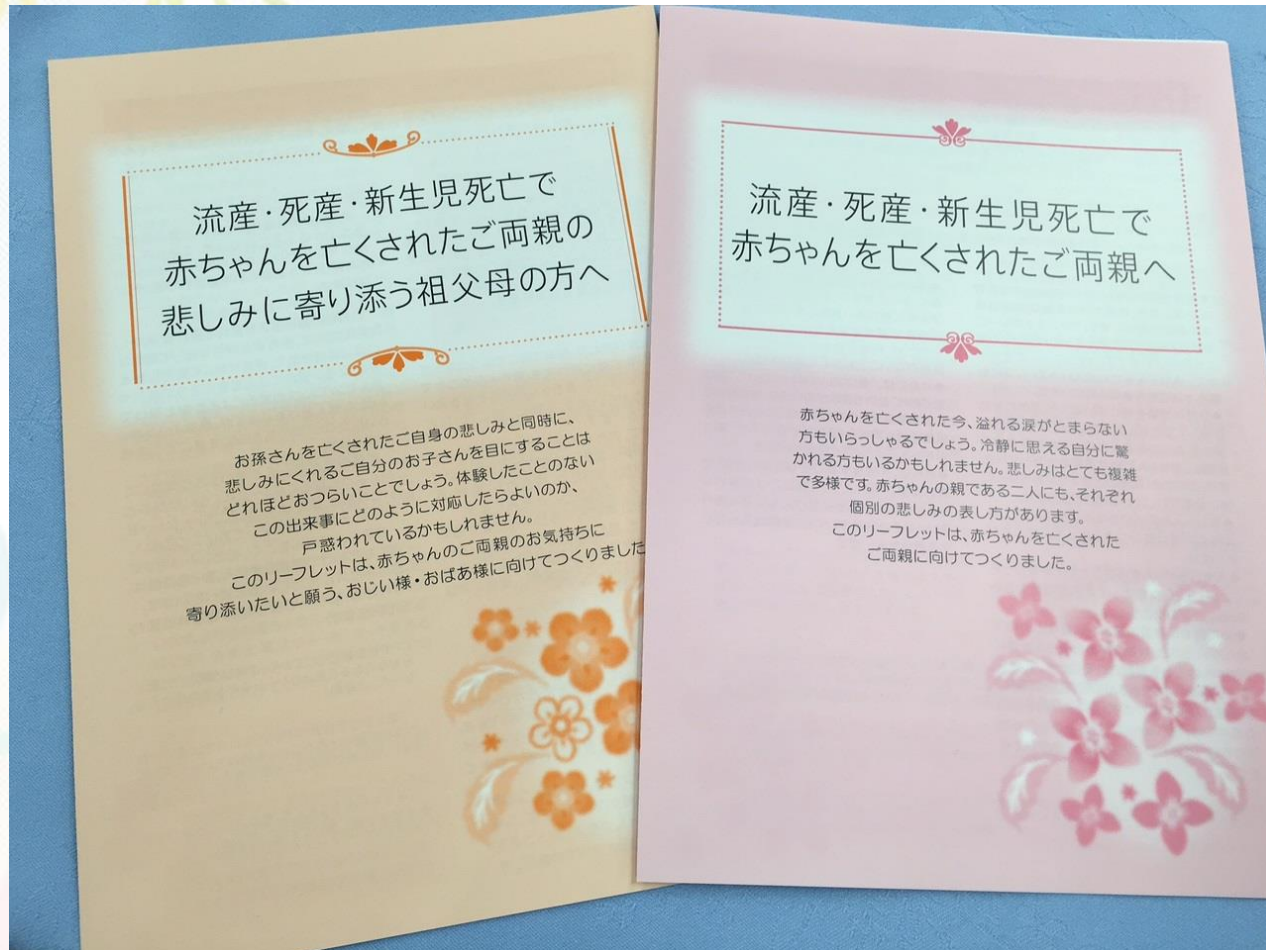
家族向けの小冊子

家族向けの小冊子
「悲しみのそばで」第3版
2021年5月発売

家族の生の声からの学
びをとり入れ、全面的に
改訂。

(聖路加国際大学PCC開発・地域連携室 開発・作成、大衛株式会社 発行)

パンフレット



- パンフレット「流産・死産・新生児死亡で赤ちゃんを亡くされたご両親へ」
 - パンフレット「流産・死産・新生児死亡で赤ちゃんを亡くされたご両親の悲しみに寄り添う祖父母の方へ」
- (天使の保護者ルカの会ホームページ)

参考文献

- 1) Kohner, N., *Pregnancy Loss and the Death of a Baby; Guidelines for Professionals*, London: Stillbirth and Neonatal Death Society (SANDS)
- 2) 太田尚子: 死産で子どもを亡くした母親たちの視点からたケア・ニーズ, 日本助産学会誌,20(1),2006
- 3)堀内成子,太田尚子,石井慶子,他: 悲しみのそばで第3版—死産、新生児死亡で赤ちゃんを亡くしたご家族へ—,2021
- 4) RCOG: Green-top Guideline No.55 Late Intrauterine Fetal Death and Stillbirth,2010
- 5) 太田尚子: 周産期喪失で子どもを亡くした夫・家族へのグリーフケア, ペリネイタルケア, 39, 2020
- 6) Neimeyer,R A, 鈴木剛子訳: 大切なものを失ったあなたに, 春秋社,2006
- 7) Neimeyer,R A, 富田拓郎, 菊地安希子監訳: 喪失と悲嘆の心理療法, 金剛出版,2007
- 8)Due et al. The impact of pregnancy loss on men's health and wellbeing: a systematic review. *BMC Pregnancy and Childbirth* ,2017 17:380
- 9)Wilke,J :Bereavement Training in Perinatal Death, Bereavement and Advance Care Planning Searvices,2012,p218

参考文献

- 10) The Dougy Center :2007 Japanese training skills Manual ,2007,p21
- 11) アメジスト大衛 <https://amethyst.co.jp/perinatallose-care/>
- 12) キャンサースキャン: 令和2年度子ども・子育て支援推進調査研究事業
流産や死産を経験した女性に対する心理社会的支援に関する調査研究 事業報告書,2021
- 13) キャンサースキャン: 令和3年度子ども・子育て支援推進調査研究事業
子ども亡くした家族へのグリーフケアに関する調査研究 事業報告書、
2022
- 14) 厚生労働省子ども家庭局母子保健課: 流産や死産を経験した女性等への心理社会的支援について, 2021,6,15 講演資料
- 15) 天使の保護者ルカの会 <https://tenshi-rukanokai.jpn.org/>
- 16) 静岡県公式ホームページ 子ども家庭課「流産・死産やお子さまと死別を経験されている方へ」
https://www.pref.shizuoka.jp/kousei/ko-140/kokatei/perinatal_loss.html
- 17) 働く女性のこころとかたらの応援サイト 妊娠出産・母性健康管理サポート <https://www.bosei-navi.mhlw.go.jp/ninshin/ryuzan.html>
- 18) 厚生労働省: 令和3年(2021) 人口動態統計月報年計(概数)の概況
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/geppo/nengai21/index.html>